

- 調査期間** 2004年～2014年
- 所在地** 高座郡寒川町宮山・倉見
- 時代** 近世、中世、奈良・平安、古墳、弥生
- 調査原因** 国土交通省関東地方整備局横浜国道事務所による一般国道468号（さがみ縦貫道路）建設事業に伴う倉見地区埋蔵文化財発掘調査
- 遺跡位置** 寒川町の北西にあたる相模川左岸の自然堤防上に立地する。



主な調査成果

これまでの調査の結果、宮山中里遺跡と倉見川端遺跡、倉見川登遺跡は遺跡名が所在地で異なりますが、近世が3遺跡全体で集落の周縁～生産域、中世が宮山中里遺跡で集落の居住域～生産域、奈良・平安時代が宮山中里遺跡の北側で集落の居住域～生産域、古墳時代後期が3遺跡全体で集落の墓域、弥生時代後期～古墳時代前期が倉見川登遺跡・倉見川端遺跡で集落の居住域、弥生時代後期が宮山中里遺跡の南側で環濠集落等と時期で異なって分布するあり方が明らかとなりました。またこれまでの調査で発見された古墳時代の古墳周溝によって3遺跡内の古墳は前方後円墳2基・円墳44基の計46基を数え、古墳同士が近接している傾向が把握されたことにより、これまで「宮山中里古墳群」と呼称された古墳群が南北約1.2kmの範囲に分布することも確認できました。他に古墳時代では倉見川端遺跡で全国的に古墳の副葬品であることの多い乳文鏡が竪穴住居跡から出土しました。このように3遺跡で古墳時代は古墳群の拡がり住居出土の鏡が特筆されます。



倉見川登遺跡 前方後円墳検出状況



倉見川端遺跡 乳文鏡他遺物出土状況